

令和6年

能登半島地震

罹災・被災証明書

自然災害による住家・非住家などの被害を証明するものです。現在、広域避難している人についても、本市の窓口で交付申請ができます。詳細は市ホームページまたは税務課資産税係まで問い合わせてください。

問い合わせ

税務課 ☎ 227-6037



令和6年能登半島地震災害義援金

「令和6年能登半島地震」により被災した方を支援するため、災害義援金を受け付けています。寄せられた義援金は、日本赤十字社石川県支部に全額送金します。

受付窓口 福祉総務課

募金箱 市役所1階インフォメーション、福祉総務課前、学びの杜のいち カレード



支援物資の提供ありがとうございました。

1月9日(火)から12日(金)まで、個人からの支援物資受け付けを行い、311人の皆さんから物資の提供をいただきました。集まった物資は、関係機関と調整の上、必要な方へ届けています。

寄せられた支援物資

生理用品		6,453個
おむつ	乳児・小児用	7,860個
	大人用	11,410個
おしりふき		4,196袋
トイレットペーパー		3,088ロール
ティッシュペーパー		1,334箱
マスク		44,518枚
飲料水	500ml 2ℓ	1,341本 631本

二次避難所での被災者受け入れ

野々市市では、県からの要請を受け、1月16日(火)に輪島市鶴巣地区の112人の避難を受け入れました。現在、市内公共施設に設けた2カ所の二次避難所で生活されています。



二次避難所設営の様子



5



4



- ①②物資拠点での管理業務
- ③④応急給水活動
- ⑤災害廃棄物仮置き場での支援業務

問い合わせ

福祉総務課 ☎ 227-6061



問い合わせ

福祉総務課 ☎ 227-6061

飲んで応援! 「とりあえず、狸々!」キャンペーン

市内飲食店が「とりあえず、狸々!」セット(日本酒『狸々』1合と料理1品)を全店舗共通1,100円(税込み)でお得に期間限定販売!また、参加店舗と中村酒造(株)が協力し、1セット注文ごとに100円を義援金として県酒造組合連合会へ送付し、被災した能登地方の酒造を支援します。



期間 2月25日(日)まで

帰省や旅行など、新年の始めを思いに過ごしていた元日の最中、大きな揺れが襲いました。1月1日(月)午後4時10分、能登半島を震源とするマグニチュード7.6、最大震度7を記録する能登半島地震が発生し、市内でも震度4の揺れを観測しました。市では同日に災害対策本部を立ち上げ、拠点避難所や予備避難所など16カ所の避難所を開設。約440人が避難しました。

1月1日(月)午後4時10分、能登半島を震源とするマグニチュード7.6、最大震度7を記録する能登半島地震が発生し、市内でも震度4の揺れを観測しました。市では同日に災害対策本部を立ち上げ、拠点避難所や予備避難所など16カ所の避難所を開設。約440人が避難しました。

今回の地震で、県内では200人が犠牲となりました。また、建物の倒壊や断水、停電、道路の寸断などにより、いまだ多くの方が避難生活を余儀なくされています。野々市市は被災県の一部ではありますが、県内の被災状況に鑑みれば、被災地域に一番近い支援者ともなります。自らの身を守る行動を継続しながら、被災地域の早期の復旧・復興に向けて、私たちに今できるこを行っていきましょう。



市職員の災害派遣

主な災害派遣先 (1月21日現在)

応急給水活動(津幡町・かほく市・羽咋市・内灘町)

1月2日(火)~5日(金)、15日(月)~16日(火) 延べ10人

被災建築物の応急危険度判定業務(七尾市・能登町・輪島市)

1月4日(木)~9日(火)、13日(土)~15日(月) 計8人

避難所での健康管理活動や訪問活動(七尾市)

1月6日(土)~16日(火) 計15人

物資拠点での管理業務(珠洲市)

1月10日(水)~20日(土)計10人

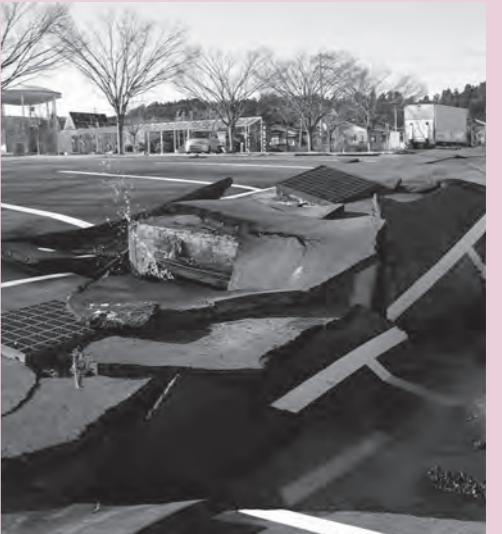
災害廃棄物仮置場での支援業務(七尾市)

1月13日(土)~21日(日)延べ10人

配水管の現況調査(内灘町)

1月16日(火)~19日(金)延べ4人

現在、県や被災した市町などからの要請に応じ、市職員を被災地へ派遣しています。



災害派遣報告
物資拠点での管理業務
市民協働課 盛本圭一
市民生活課 多田裕一

私たち、1月10日(水)から12日(金)まで珠洲市立健民体育館にて支援物資の管理業務に従事してきました。健民体育館は、珠洲市の支援物資の拠点となっており、全国各地から続々と支援物資が届けられています。私たちは自治体や自衛隊、物流業の方たちと即席のチームを編成し、被災者の命を守るために活動として搬入された物資を翌日にすべて避難所へ届けるという「ピッシャー型支援」を実行してきました。避難所のニーズは日々変化しています。発災後、初期段階で不足していた「飲料水」ですが、私たちが携わった頃、珠洲市の避難所では既に供給過多になっていました。それでも、さまざまな情報をきっかけに大量に届く「飲料水」の重さで、体育館の床が抜けてしまふ事態も。情報発信の難しさを感じながらも、足りられる多くの温かいご支援に復興への希望を感じました。